

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792520017		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー磐梯		
所在地	福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字山道366		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自立支援」「家族支援」「地域支援」「環境整備」「個別ケア」を事業所理念に掲げています。お客様のできること、尊厳を大切にしながら、自立に向けた意欲を引き出していただける支援を心がけています。お客様の思い、ご家族の思いを大切に、相談しやすい馴染みの関係を築き、柔軟且つ継続した支援を心がけています。地域密着を意識し、開所当時から施設催しを定期に実施し、地域の方々との交流を図ってきました。お客様も積極的に地域に出向き、地域社会との関わりを持つ機会を多く持って頂ける等に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 小規模事業所ではあるが、認知症カフェを開催する等、地域貢献に努めている。また、地域行事に利用者と参加したり、事業所主催の夏祭り等には地域ボランティア等の参加があり、定期訪問のカラオケ・フラダンス・大正琴が訪れる等、地域との交流がある。
2. 同一施設内に小規模多機能型事業所も運営しており、各施設の機能を活かし、アクティビティーも一緒に行うなどして、利用者同士の交流等を円滑に行い、効果的なサービス支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立支援」「家族支援」「地域支援」「環境整備」「個別ケア」を事業所理念として掲げ掲示、朝礼時に理念を唱和し、職員が日々頭に入れ、意識して実践につなげている。	一昨年、職員間で話し合い理念の見直しを行い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念へと作り直した。理念は事務室に掲示しており、毎朝、唱和しながら、職員は、日々の支援の中で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くの地域の方々にお越しいただけるよう催しや行事を定期的に行っている。又地域の文化祭や町内の行事にも積極的に参加して交流を図っている。	事業所の夏祭りは地域の方の協力を得ながら開催しており、地域からの参加が得られている。また、利用者と一緒に地域行事(夏祭り・敬老会・文化祭・運動会等)にも参加し、双方向の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し家族や地域の関係者への支援について報告している。又、地域行事の参加等、日々の生活の中で理解を深めていただこう努めている。施設で認知症カフェを毎月開催し、ミニ講和や交流を通して認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	お客様、地域住民の代表者、役場や包括支援センターの方々にも参加していただき、2ヶ月に一回の運営推進会議を開催して様々な意見をいただきながら、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、定期的に開催されている。事業所から状況報告をし、委員から事業所広報誌やパンフレットを役場等へ置く事の提案や質問・意見等が出され、サービス向上に活かされている。しかし、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催しており、利用者・家族の代表が小規模事業所だけであった。	利用者・家族に開かれた事業所となるため、両方の事業所の利用者・家族の代表が運営推進会議に参加することが求められており、早急に参加できる委員の選定をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当者、保健師、包括センターとの地域ケア会議で情報の共有を図り、サービスに関しての助言をいただいている。	運営推進会議に行政からも参加があり、事業所の実情を伝えている。地域ケア会議等では困難事例の検討等を行い、良い支援の気づきの場となっている。また、町から委託を受けた認知症カフェの開催等、町の担当者と協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及びすべての職員が身体拘束の勉強会を実施し知識を得ている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し、日々の業務の中でも身体拘束がおこなわれていないか検討している。又、玄関のドアは二重でタッチボタンを押して頂ければ開閉が出来るようになっており、開閉方法を掲示し、どなたでも開閉できる様にするなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事故防止・身体拘束廃止委員会が設置され、具体的な事例の検討が行われるとともに、高齢者虐待・不適切ケアチェックリストを半年ごとに全職員に実施し、職員会議、事業所内研修を通じ理解を深め、認識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に積極的に参加し、職員会議や施設内研修などで教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「虐待防止」や「成年後見制度」など権利擁護に関する制度の理解と活用ができるよう、外部研修への参加や内部研修会を開催しながら、継続的に学習の機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族に対し、内容や重要事項説明を十分行って不安なく利用していただけるよう努めている。又、利用料金改定等の際には、書面による詳しい説明により納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事の時など日頃から家族と話しやすい雰囲気を作り、気兼ねなく意見や要望を伝えて頂けるようにしている。又、意見等が反映できる様職員会議などで検討しより良いケアに努めている。	家族の面会時や行事参加時は、利用者の情報を伝え、意見を交換するよう心がけている。聞き取った意見や要望は運営に反映させている。毎年事業所が実施する介護サービス向上のためのアンケート調査でも意見や要望は出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員の気づきや発見をサービス改善に生かすことができるように努めている。年に数回本部役員との面談を行い職員が直接意見交換ができるように努めている。	職員の意見や要望は職員会議・申し送り・個別相談等で把握しており、管理者が集約し業務見直し・3連休の取得等、具体的改善に活かしている。法人代表との個別面談等もあり、職員の将来展望等を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援をおこない、資格取得後も資格を十分に活かせるような環境作りを行っている。業務についての評価を行い、昇格制度があり、職員が意欲を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が予定されており、職員が研修を受講できる機会がある。外部研修に関しては積極的に参加できるような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。研修等を通して交流をおこなうことで事業所のサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の要望や不安に思うことが話しやすいような対応を心がけている。安心してサービスを受けていただけるよう、説明を十分に行い、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始までの間に、これまでの経緯や、不安、要望について十分に話を聞く機会を設け、良好な信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様のニーズを把握し、今何が必要なのか、話し合いながら、ご本人の意向に沿ったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、調理、掃除などご本人ができることはできる範囲でしていただき一人一人が役割を持って生活できるような関係を築けるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との相談、連絡などを積極的におこない、行事などにも参加し本人の支援に関しての情報の共有を図るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気兼ねなく来ていただける環境を整え、ゆったりとした雰囲気でも過ごして頂けるようにしている。又地域の行事等への参加を通して、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人等の面会の際はお茶を出し、ゆっくり寛いでもらい、居心地のいい環境づくりをしている。また、家族の協力を得ながら自宅や外食に出かける等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を把握し、良好な関係作りが出来るように心掛けている。孤立しそうなお客様には職員がサポートし、皆が関わり合いが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその後の相談や支援に応じる姿勢を示しながら、必要に応じて相談をおこなう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画見直し時や、日頃の会話時に要望などを伺いプランに反映できるように努めている。 ご本人から確認が出来ない場合はご家族からもご本人の思いを代弁して頂いたりし、ご本人の立場に立ち検討している。	日常的な支援の中から利用者の思いや希望を把握している。また、意思表示の出来ない人には、家族からの情報をもとに利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時等に生活歴や趣味、生活パターンなどを把握し、サービス担当者会議で支援内容を検討して今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、情報共有を行い、一人ひとりの過ごし方や有する力等の把握に努めている。 又、個別の日常生活記録やバイタル測定等にて、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。 又、3ヶ月毎や変化に応じ、ご本人、ご家族の意向を把握しながら現状に応じた介護計画を作成するよう努めている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画の援助内容に即した支援を行っている。ケース検討会議では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、ケース記録に援助内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	ケース記録には介護計画の援助内容の実施状況を記録し、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため個別記録の記載について検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別の日常生活記録に記入し、職員間で情報の共有が出来るように活かしている。又、カンファレンスでの情報交換を元に次回の計画見直しの検討課題に反映できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応じて、外泊、外出への支援を行っている。受診や買い物等も柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板などで情報を共有している。また地域のボランティアの方を招いたり行事にも参加をし、ご本人にとって楽しみある生活を維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望によってかかりつけ医を選択して頂き、家族対応で受診をしている。通院時は家族に事前に生活状況をお話したり、必要があれば職員が受診に同行し様子を聞くようにしている。	利用者、家族の希望に沿った医療機関で受診出来るよう支援しており、かかりつけ医通院の場合は、家族対応を基本としている。利用者の身体状況は、職員が家族に伝え、結果は家族より報告を受け、情報共有が図られている。協力医による往診の結果は、事業所から家族に電話等で伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での状態の変化を看護師が把握し、医療機関に相談、家族への報告など迅速に適切な医療が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者様の具体的な情報を提供している。入院中も状態把握に努め、退院後の支援方法についても情報交換を行っている。又、退院時は退院前カンファレンスに出席し、今後のケアが安心して行えるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの際に急変時の対応などをご家族に確認している。また、対応できることとできないことをその都度説明し、ご家族にご理解をいただき重度化をむかえた場合の相談支援をおこなっている。	「看取り対応マニュアル」が策定されており、事業所の重度化した場合における(看取り)指針は、利用者の身体状況が重度化した際に利用者・家族へ説明し、書面で同意を得ている。また、病状変化に伴い家族・医者・事業所等が話し合いその都度、意思確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修を通して緊急時対応を訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間想定避難訓練を実施しお客様が安全に避難できるようにしている。又、避難訓練の際、事前に地区の班長に文章にて依頼し、協力を頂くようにしている。	年間防災計画を策定し、火災・地震・噴火・風水害等の避難訓練を昼、夜間を想定し実施している。訓練は防火管理者の指揮により職員の役割を明確にし、的確に誘導出来るよう行っている。また、地区の方々による利用者の見守り等の協力体制があり、研修を含めた机上訓練も採り入れている。備蓄も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修で接遇マナー研修をおこない言葉掛けや対応について学習している。個人情報の保護、守秘義務の重要性を全職員が認識していると共に、お客様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを守れるように声掛けや対応に配慮している。	利用者の尊厳に配慮した理念を掲げ、また、接遇マナーの事業所内研修を実施し、全職員が、利用者一人ひとりの尊厳を守り、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないような支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で希望や思いを把握するように努めている。要望・思いを表された時など、ご本人が自分で決定できる場面を提供している。 自ら思いを伝えることが難しい方については、生活歴や嗜好等を把握し、希望に沿えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、お客様一人ひとりのペースに合わせ生活できるように支援している。希望があれば、可能な限り意向に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方はおしゃれの日を決め、職員と楽しみながらおこなえるようにしている。また、訪問理美容を利用し定期的カットや整髪ができる機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様と一緒に野菜の下ごしらえ、味付け、盛り付けなどをおこなっていただいている。また、季節に応じて外食をして食事を楽しむことができるようにしている。施設での餅つき、流しそうめん、芋汁や秋刀魚を焼いたり等、普段と違った食事を楽しむ機会も作っている。	利用者の力を活かしながら、張り合いや自信となるよう、食事の下ごしらえ・味見・盛り付け等を職員と一緒にしている。また、職員も一緒に楽しく会話をしながら食事を摂っている。餅つき、流しそうめん等の行事食で、季節感を味わうと共に食の楽しみが得られるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントや医療機関との連携を実施し本人に合わせた食事形態の把握、摂取量の把握をおこなっている。又、日常生活記録では食事量や水分量が解るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをご本人の能力をみながら声掛け、介助をおこない、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし本人の状態に合わせ、排泄ケア委員会が中心になって一人一人の排泄パターンや支援方法を検討し、快適な生活の支援につとめている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーを損ねないように、トイレへの誘導支援を行っている。また、排泄委員会を中心に個別の支援方法を検討し、羞恥心を軽減するための配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない医療機関の指示のもと下剤でのコントロールをおこなっている。水分量を増やすために、個人の好みにあった水分の提供、ゼリーの提供等排便を促す取り組みをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の仕方を尊重し、本人の楽しみの場になるように提供している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを使用してより気持ち良い入浴をしていただく工夫をしている。	利用者の希望に沿った入浴を支援している。檜風呂の個浴とリフト付の大浴槽が用意され、一人ひとりの身体状態に合わせて選択している。菖蒲湯やゆず湯等季節感を味わい、入浴が楽しみになるよう工夫している。また、入浴への羞恥心、負担感等を職員が理解し配慮しながらの入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて横になって休んでいただいたり休息の時間をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師が薬の管理を実施している。薬の名前や効果については個人の処方箋でいつでも確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる力を生活の中より把握し、家事や掃除、畑仕事等役割をもって取り組むことができるように支援している。気分転換については、外出支援などをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常で散歩など体調にあわせて支援を行っている。年間行事計画をもとに、お花見や季節の花を見に出かけたり紅葉狩りや神社への参拝などその方に合わせて楽しみをもった生活を支援している。	年間行事計画の基、花見や紅葉狩りに出かけ、また、地域行事である夏祭り・小学校の運動会・文化祭等に参加している。利用者の希望に合わせ中庭の散策・近所の散歩・買い物等に出かけ、気分転換、ストレス解消を図っている。家族の協力を得た通院や外食、ドライブ等、外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金を所持している方はいない。 急に必要なものが出た場合は施設で立替えて購入して買い物の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅や親戚、友人への連絡を取りたいと希望される場合は事務所の電話を利用し自由に連絡を取ることができるようにサポートしている。又、楽しみとして季節のはがきをご本人がご家族に送る等の取り組みもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の作品や活動写真、季節に合わせて風景の写真などを飾ったりして馴染みやすい環境づくりを心がけている。共用のスペースには囲炉裏を配置し、明るい日差しも入り込み、外の景色も見えやすいようになっているなど、お客様が居心地良く集まりやすいようにしている。	共用スペースには利用者が作った作品、地域の草花・行事等の写真が飾られている。また、大きな囲炉裏が配置されており、利用者が集い、穏やかに過せる居心地の良いスペースとなっている。温度や湿度の管理、清掃は職員が行い清潔感が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、多人数で賑やかに過ごせる場所や少人数で静かにくつろげるような場所づくりをおこないお客様の居心地にあわせた使い分けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室にはお客様の使い慣れた物を持ってきていただき、落ち着ける環境を整えられるように、ご家族様に協力をいただいている。	居室には、利用者が自宅で使い慣れたタンスや衣装ケース・机・椅子・趣味の習字用具・家族の写真等を持ち込んでもらい、家族と話し合い使いやすく配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を表記し、迷わないよう工夫している。 又、できるだけ安全に自分の力で移動ができるようホール内には手すりを設置し全てがバリアフリーになっている。		